

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

Ancient India meets Data-Science

The 2nd and concluding Workshop of SPIRITS project "Chronological and Geographical Features of Ancient Indian Literature Explored by Data-Driven Science",
it's also a Kick-off for Joint International Research "A Study of Language Layers in Vedic Literature for the Development of a Program for Age-Estimation"

古代インドとデータサイエンス

SPIRITS プロジェクト「データ駆動型科学が解き明かす古代インド文献の時空間的特徴」第2回(最終)ワークショップ。

国際共同研究「ヴェーダ文献における言語層の考察とそれを利用した文献年代推定プログラムの開発」のキックオフを兼ねて。

2. 主宰責任者氏名

京極祐希(ライプツィヒ大学研究員)

天野恭子(京都大学 白眉センター・人文科学研究所 特定准教授)

3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

2022年2月11日、16時から19時、オンライン開催

16:00-16:30 JST (= 8:00-8:30 CET)

The Result of the Two-Year SPIRITS Project and Our Vision for the Next Research
Kyoko Amano (Kyoto University, Hakubi Center / Institute for Research in Humanities)

16:30-17:00 JST (= 8:30-9:00 CET)

Visualization meets Ancient India: Mapping the Structure of Vedic Texts
Hiroaki Natsukawa (Kyoto University, Kyoto University, Academic
Center for Computing and Media Studies)

17:00-17:30 JST (= 9:00-9:30 CET)

"One Step Further: Assessing Semantic Similarity in Sanskrit Using Word Embeddings with a Weighting Factor"

Yuki Kyogoku (Leipzig University, Indology)

17:30-17:45 JST (= 9:30-9:45 CET)

Break

17:45-18:15 JST (= 9:45-10:15 CET)

"Computational Stylometric Analysis on Intertextuality in Historical Written Languages: A Case Study of Coptic"

So Miyagawa (Kyoto University, Graduate School of Letters / Center for Cultural Heritage Studies and Inter Humanities)

18:15-18:45 JST (= 10:15-10:45 CET)

Dependency parsing of Vedic Sanskrit - Algorithms and linguistic conclusions

Oliver Hellwig, Sebastian Nehrdich, Sven Sellmer (Dusseldorf University, Institute for Language and Information)

18:45-19:00 JST (= 10:45-11:00 CET)

Discussion and Concluding remark: Oliver Hellwig

4. 概要(400字程度)

2020年度から2年間、京都大学学内ファンド SPIRITS の学際研究型・人社重点領域プロジェクト「データ駆動型科学が解き明かす古代インド文献の時空間的特徴」を展開している。研究チームは、古代インド文献学およびデータサイエンス・情報可視化を専門とする研究者から成り、文献から得られる情報を様々な方法でデータ分析し、その可視化を試みている。2021年2月12日に開催した第1回ワークショップでは、方法論の提案と新たな国際的研究者コミュニティの創設を目的として開催し、文献研究にデータサイエンスの手法を取り入れることに関心を持つ様々な分野の研究者が参集し、本プロジェクトを取り巻く研究者ネットワークが大きく広がった。その後研究は順調に進捗し2年間のプロジェクトは今年度末に終了を迎えたが、その締めくくりにあたり、現在までの具体的な成果を発表し評価する場として開催した。成果の総括から、後継プロジェクトである科研費国際共同強化(B)プロジェクト"A Study of Language Layers in Vedic Literature for the Development of a Program for Dating"に繋がる視点、課題を拾い出し議論した。

5. 参加者(こちらは主な参加者のみ。別紙「参加状況」に全員分を記載。)

①学外

幅田弘美(国際仏教学大学院大学教授)

永崎研宣(一般財団法人人文情報学研究所)

高島淳(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所名誉教授)

川村悠人(広島大学人間社会学研究科准教授)

岩崎陽一(名古屋大学准教授)

真鍋智裕(北海道大学文学研究科准教授)

Jens-Uwe Hartmann (ミュンヘン大学教授)

Tiziana Pontillo (カリアリ大学教授)

Nirmala Kulkarni (プネー大学教授)

学内

横地優子(文学部教授)

Somdeva Vasudeva (文学部教授)

所内

井狩彌介(名誉教授)

6.助成金の使途等

チラシデザイン料 99,000 円。

7.その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

SPIRITS プロジェクトのワークショップとして第2回目の開催であったが、前回よりさらに参加者の層が広がり、人文情報学のプロジェクトに関わるヨーロッパやインドの研究者が多く議論に参加したことは非常に大きな成果であった。プロジェクトの立ち上げから現在に至るまで、古代インド文献について様々な分析方法を試行しつつ共同研究を進めているが、今回のワークショップは方法論ではなく、これまでの2年間に行った分析や可視化の現時点での成果を提示して評価することに主眼を置いた。第1回目ワークショップでは、従来の文献学の手法を主とする研究者からは、情報学的な、特に技術的な話題に与し難いという意見を得たが、今回のワークショップでは分析や可視化の実際の成果を提示することで、これらが文献の成り立ちを考える上で重要な視点を示し得ることを提示できたと思う。

本プロジェクトのように、研究の方法論そのものを常に開拓し続け、新しい方法での成果の評価とフィードバックを繰り返すような研究、さらには新しい方法についての情報収集が欠かせない研究については、小規模のワークショップをある程度の頻度で続けていくことが大切であると改めて認識した。今後はそのように、研究ミーティングの開催をより効果的にするあり方を考え開催を継続していきたい。

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	1	13 (5)	3 ()	2 (1)	4 (2)	2 (1)	13 (5)	3 ()	2 (1)	4 (2)	2 (1)
国立大学	8	14 (5)	()	2 ()	3 ()	7 (2)	14 (5)	()	2 ()	3 ()	7 (2)
公立大学	1	1 ()	()	()	1 ()	()	1 ()	()	()	1 ()	()
私立大学	10	15 (5)	()	4 (1)	5 ()	1 (1)	15 (5)	()	4 (1)	5 ()	1 (1)
大学共同利用機関法人		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
独立行政法人等公的研究機関		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
民間機関	2	3 ()	()	()	3 ()	()	3 ()	()	()	3 ()	()
外国機関	39	53 (20)	53 (20)	15 (3)	27 (4)	11 (2)	53 (20)	53 (20)	15 (3)	27 (4)	11 (2)
その他		14 (2)	3 ()	3 (1)	4 (1)	2 ()	14 (2)	3 ()	3 (1)	4 (1)	2 ()
学外 計	60	100	56	27	40	21	100	56	27	40	21
計	61	113 (37)	59 (20)	29 (6)	44 (7)	23 (6)	113 (37)	59 (20)	29 (6)	44 (7)	23 (6)
【その他の参加状況】											

※本務所属が海外の研究機関である研究者

※()内には、女性数を記載

※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。

※外国人、若手研究者(40歳未満)、若手研究者(35歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。

※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。

※【その他の参加状況】には「その他」区分に計上した、具体的な所属等を記載

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください

国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人